

私たちの生活と経済

価格の決め方と有効な経済的選択について 考える授業実践例

富山県公立中学校教諭

はじめに

生徒たちにとって、経済活動は身近なところで行われている。しかし、その活動の基本的な枠組みや、しくみについて知らないことが多い。私が、この分野の授業をしていて感じることは、経済活動が限られた資源を有効活用するために、常によりよい経済的選択が行われているという意識が生徒たちには低いということである。

新学習指導要領では、「対立と合意」、「効率と公正」というキーワードが提示された。経済分野でこれらのキーワードを考えると、価格を決定するとき、売る側と買う側の互いの立場が成り立つように、何らかの「合意」に至る努力がなされる。合意がなされる場合、双方は合意の妥当性を判断する必要がある。その判断基準が、経済の「効率」（この場合は、限られた資源を有効に活用すること）や「公正」（経済活動の機会、結果で不当に不利益を被っている人がいないか）という視点である。これらの感覚を生徒たちに身につけさせることを意識させながら、経済分野の導入となる本単元を扱いたい。

2 単元構成

帝国書院の「中学生の公民 初訂版」（以下教科書）の第2部「1章 私たちの生活と経済」（p.34～37）を具体的な事例をもとに考え、

理解する授業を2時間で構成した。

第1時 お金の使い方を考える

第2時 価格のはたらきと経済（本時）

3 授業の展開

1) 授業内容の工夫

価格の決め方を考えるとき、需要曲線・供給曲線を利用する方法があるが、教科書では取り扱われていない。過去に本単元の授業で需要・供給曲線を使って実践したが、この曲線の意味を理解することは生徒たちにとって難しいことが多かった。そのため、価格の決め方を需要と供給の関係をふまえて生徒に理解させるには、身近な具体的事例を取り扱って学習する必要性を感じていた。

また、具体的事例を扱う際も、需要量と供給量がともに変化する事例を挙げると、生徒の思考が混乱することが多かった。そこで、今回は供給量が変化せず、一方の需要量が増加することによって価格が決定する具体的事例を使って生徒に理解させる方法を採用した。

2) 導入

前時に、「お金の使い方」の学習を行い、「60万円の預金の有効な使い方」を考えた。その中で最も多かった意見は、「将来に備えて貯蓄する。」であった（今のご時世を反映しているのだろうか）。次に多かったのは、「家族や友だちと旅行に行く。」であった。

そこで、今回の授業では、旅行パンフレットを教材にして授業を行った。

教師：前回の授業で、貯めたお金を旅行に使いたいという人が多かったので、今日は旅行のパンフレットを持ってきました。最近は、「安（安い）、近（近い）、短（短期間）」の旅行に人気があるそうです。今日は日本に近い海外の一つであるアメリカ合衆国のグアムのパンフレットを持ってきました。

ここで、各班（各3人）に、パンフレットの一部（カラーコピー）を配布した。パンフレットは、旅行代理店が作成したものを使用したので、生徒にはやや難解であった。そのため、見やすく、料金などの必要な情報を見つけやすいページを厳選し用意した。

3) 資料を読み取る

教師：資料の右下に、ツアーの料金が書いてあるので見てください。気づいたことを班で話し合ってみてください。

用する航空会社が違うとツアー料金が違って来る。でもなぜ？

G班：旅行代金の上にあるA～Pって何のこと？

H班：料金表の右端にある旅行代金カレンダーって何？

前記以外にも生徒の様々な気づきや疑問があった。初めて旅行のパンフレットを目にする生徒も多く、掲載されている情報を正しく理解し比較することに苦勞していた。そこで、生徒の疑問に答える形で料金表の見方について学習し、正しく資料が読み取れるようにした。

4) 学習課題を確認する

ここで、同じツアーなのにいくつもの料金設定がされていることに注目させるため、以下の発問をした。

教師：ところでB班が、料金表の右に行けば行くほど高くなると言ったけど、どれくらいの差があるの？

グアム 旅行代金表（単位：円）

以下が、班で話し合った内容の発表である。

A班：たくさん数字が書いてある。

B班：料金表の右に行けば行くほど高くなる。

C班：料金表の下に行くほど高くなる。

D班：部屋タイプって何？

E班：日数って、旅行の期間のこと？

F班：宿泊するホテルが同じなのに、利

生徒が、班ごとに計算を始め、約10万円の差があることを確認した。

ここで本時の学習課題を提示した。

同じツアーなのに、料金が違うのはなぜでしょうか。

「料金が低いときは、実はサービスがよいのではないの？」という生徒もいたが、サービスには違いがないことを伝えた。そして、

グアム 旅行代金カレンダー

旅行代金カレンダーを配布し、次の課題を提示した。

教師：旅行代金の各ランクが集中しているのはどんな時期でしょう。傾向や気づいたことを班で話し合ひましょう。

<各班の意見>

- ・一番安いAランクは、4、5月に集中している。
- ・木、金、土の出発日が、日、月、火、水の出発日より料金が高めになっている。
- ・7～9月までの料金が高い。
- ・7月の中頃から料金が高くなる。
- ・4月の終わりから5月初めまでと、8月10日ごろが最も高い時期になっている。
- ・9月の中頃に急に料金が高くなる時がある。

ここで、祝日、学校休業日を書き加えたカレンダーを配布した。また、企業で働く人の休暇取得の実態（夏季休暇等）について解説をつけ加えた。その後、配布したカレンダー

に家族がそろって休暇を取りやすい日を見つけさせ、旅行代金カレンダーと比較させた。

5) 価格の決まり方を理解する

教師：家族がそろって休暇が取れる日と旅行代金カレンダーを比較して、気づいたことは何ですか。

多くの生徒が、家族がそろって休暇が取れる日を、土曜、日曜、祝日、ゴールデンウィーク、お盆前後としていた。旅行代金カレンダーと比較することで、「家族がそろって休暇が取れる日」＝「旅行代金が高いとき」という関係に多くの生徒が気づいた。

ここで、生徒の思考をまとめるため、生徒とともに「多くの人々が休暇を取りやすい日」＝「多くの人々が旅行に行きやすい日」＝「旅行に行きたい人が多くなる日」＝「ツアーを買いたい人が多い日」＝「ホテルの部屋や飛行機の座席が取り合いになる可能性がある日」＝「ツアー料金が高くなっても売れる日」＝「ツアー料金が安い日」という関係を導き出した。つまり「買いたい人が多く、売れる物が足りなくなる」＝「需要量>供給量」＝価格が上昇するという関係を理解することができた（同時に料金が安くなる理由についても学習）。

また、この時点で、需要と供給のバランスによって決まる価格以外に、国会、政府、地方公共団体が認可、決定する公共料金があることについてもふれた。

6) 限られた資源の有効利用について考える

教師：前時に預金60万円の使い方を考えました。来年、あなたの家族はその預金60万円を使って旅行するとします。また、今日は出発日によって旅行代金が違うことも学びました。そこで、あなたは今日のパンフレットの中だったらどのツアーに行きますか？

また、その旅行を選ぶとき、どんな条件を考慮しましたか？

学習日：平成 年 月 日

学習テーマ：60万円の預金を使って、グアム旅行へ行こう！
～あなたは、どのツアーを選びますか～

3年 組 番

① 選んだツアー（日数）	旅行日数 3・4・5 日間
② 出発日	月 日
③ 旅行料金カレンダーのコース	[1・2・3] コース
④ 大人1人あたりの料金	円
⑤ 参加人数	人
⑥ 旅行代金の合計 (大人・子ども同額とする)	円

～ツアーを選ぶ時に考慮したことは何ですか？～

ここでは、本時の学習のまとめとして、「限られた資源の有効利用」について考える学習を行った。

「限られた資源の有効利用」とは、「様々な制約の中で、より効果的なものを選択する」といい換えることができる。私たちは、経済活動を行うとき、様々な制約を考慮して行っている。今回、題材として取り上げた旅行という商品を購入するときも、金銭的な制約、時間的な制約、旅行する場所の気候など自然環境の制約など多面的な制約を考慮したうえ

で購入している。様々な制約に配慮しながら、最も有益な商品とサービスを選択できる力が、「限られた資源」を有効に使うための「よりよい経済的選択」ができる力であると考えた。そのため、生徒には、「どのツアーを選択するか」ではなく、「なぜそのツアーを選択したのか」という理由を述べることに重点を置いた。経済活動が、人々の多面的・多角的な思考により成立していることを理解することが、今後の経済分野の学習で多様な見方・考え方につながっていく。

以下、生徒の反応である。

- ・一番考慮したのは料金です。できるだけ安いときに行った方が得だと思いました。
- ・私は6人家族なので、全員が旅行に行けるようにするためには、1人あたり10万円以下の料金のときでないと行けません。だから料金を一番に考えました。
- ・家族が全員休みが取れる日を考えると料金は高いけど、8月15日に出発するツアーにしました。
- ・親が休みを取れるのは、8月のお盆のころになりますが、そのころの料金は高いので家族全員（5人）は行けません。だから、お金が貯まるまでは旅行をしない方がいいと思いました。

4 おわりに

2012年度から新学習指導要領が完全実施される。新学習指導要領の公民分野では、「対立と合意」、「効率と公正」を意識した授業がより一層求められることになる。今後も、現代社会をとらえる見方や考え方の基礎を養うことができる授業の構成と教材開発を続けていきたいと考えている。